

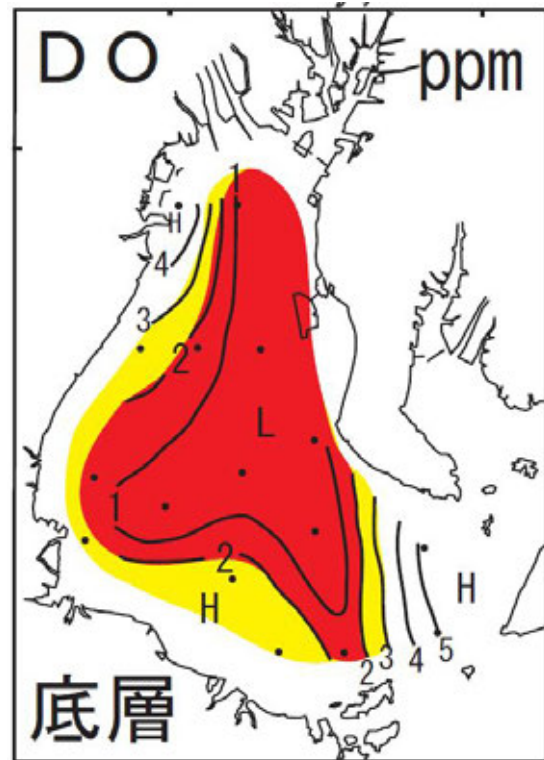
伊勢湾貧酸素情報（第 3 報）

三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

底層の溶存酸素量は先月よりもさらに低下した。湾中央部を中心に広い範囲に 2 ppm以下の貧酸素水塊が形成されている。

8月18日の調査結果

8月18日の調査船「あさま」の定線観測によると、水温は表層で 25.1 ~ 27.9 , 10m で 20.9 ~ 23.3 , 底層で 17.9 ~ 25.3 の範囲にあり、平年並みから低めとなっていた。塩分は表層で 18.68 ~ 28.31 , 10m で 30.76 ~ 32.46 , 底層で 26.77 ~ 33.90 の範囲にあり、表層で平年値に比べ低め、10m と底層で平年並みとなっていた。DO(溶存酸素量)は表層で 6.0 ~ 9.3ppm , 10m で 2.6 ~ 5.1ppm , 底層で 0.1 ~ 5.6ppm の範囲にあり、表層では湾奥で高く、湾口部で低め、10m では湾中央部で低め、底層では湾中央部の深所を中心に 1ppm 以下の貧酸素水塊が形成されており、貧酸素水塊の範囲は先月ほとんど変わっていない。調査時、表層で高温、底層で低温・高塩分傾向のため、上下混合が起こりにくく、底層の貧酸素化が進行しやすい状態にあると考えられ、今後、その動向を注視する必要がある。



底層貧酸素水塊分布